

ケニア市場調査報告書

2018年 4月
株式会社トヨトミ

アフリカでは調理時に薪や木炭、灯油、ガスを燃料とするコンロを使用しています。しかし、そのコンロから発せられる煙が原因で呼吸器疾患を患う、失明してしまう方がいます。WHOの統計によれば、BOP層では呼吸器疾患により年間約400万人の方が亡くなっているそうです。弊社では呼吸器疾患や失明に苦しんでいる方々を救うべく、2017年度よりコンサルティング会社と協業し、アフリカに弊社のクリーンな調理コンロを広めていく活動を行っております。まずはケニア市場調査を目的とし、2018年2月12日～2月16日の間、ケニアに訪問しました。

ケニアは赤道直下に位置しますが標高が高いため、過ごしやすい気候の国です。日中は25℃～30℃程度、朝晩は20℃付近まで下がり、少し肌寒い気候となっています。ケニアに住む約90%の人々が薪や木炭を燃料としたコンロを調理時に使用しています。街中の卸売り店エリアやスーパーマーケットに伺った際にも中国製、ケニア製、インド製の灯油コンロ、木炭コンロ、ガスコンロが陳列していました。これらの多くは価格が非常に安いのですが、品質も非常に粗悪なものが多いようです。



燃料の調達方法に関しては、灯油とガスは街中にあるガソリンスタンドにて購入できます。日本で灯油を購入する場合はガソリンスタンド等で18Lのポリタンクに入れて購入しますが、ケニアの貧困層、中間層は一日の収入が少なくその日暮らしの生活をしているため、18Lのポリタンク分を購入する事はありません。1日分の灯油を毎日購入しています。街中にある灯油販売所を訪れた際にも、500mlのペットボトルに灯油を入れている現地住人に遭遇しました。その方も何日間分の灯油を購入する余裕がないため、その日使うのみを購入しに来ていました。灯油は主に調理、ランプに使用するそうです。



500ml ペットボトルに灯油を入れるユーザー



現地で使用されているガスコンロ

一方でケニアは携帯電話の普及率が高く、人口の 80%以上が携帯電話を利用しています。携帯電話のモバイル・マネーサービスも発達しており、携帯電話の SMS を利用する M-PESA というサービスで送金、決済、携帯代チャージ、ローン・預金等が出来ます。街中の M-PESA 代理店や M-PESA 対応しているガソリンスタンド等で携帯電話を使用して ATM のようにお金を引き出すことも可能です。オフラインの実店舗でも店舗側が提示している M-PESA コードを入力する事で簡単に決済ができます。M-PESA はファーストフードチェーン店、スーパーマーケットでも対応している店舗がありました。発達途上国ではありますが、先進国にも劣らない面もあると感じました。

今回のケニア市場調査の結果、まだまだ薪・木炭を使用している人々が多いことから、灯油の市場に将来性もあるのではないかと考えています。また弊社の調理用灯油コンロを現地住民の前でデモ燃焼した際、こんなにも臭いが少なく、煙も出ないのかと高い評価を頂きました。現地で販売している調理用灯油コンロは安価ではありますが、臭いと煙が多い製品でもあり、ケニア住民は灯油に対してネガティブなイメージを持っていました。ですが、デモ燃焼の結果、弊社調理用コンロによって灯油に対するネガティブなイメージを払拭していけるのではないかと、現地住民の反応を見て感じます。



以上